

茅ヶ崎市低炭素まちづくり計画（素案） について

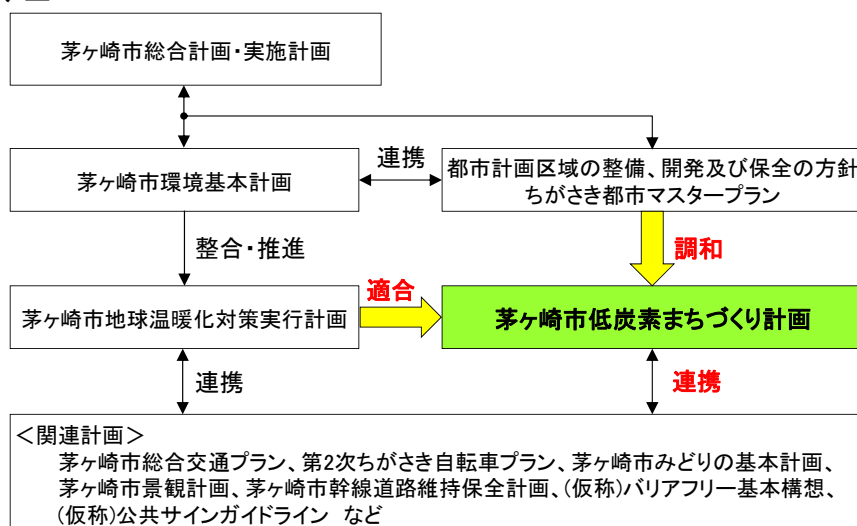
茅ヶ崎市都市部都市計画課

1. 計画策定の趣旨・概要

■背景■

- 都市の低炭素化の促進に関する法律(エコまち法) 平成24年12月施行
都市構造に由来するCO₂排出量の削減が進まない中で、少子化・高齢化が進む将来に対応したまちづくりの取組と合わせて都市の低炭素化が重要
- 市町村は「低炭素まちづくり計画」を策定できる(エコまち法 第七条)

■位置付け■

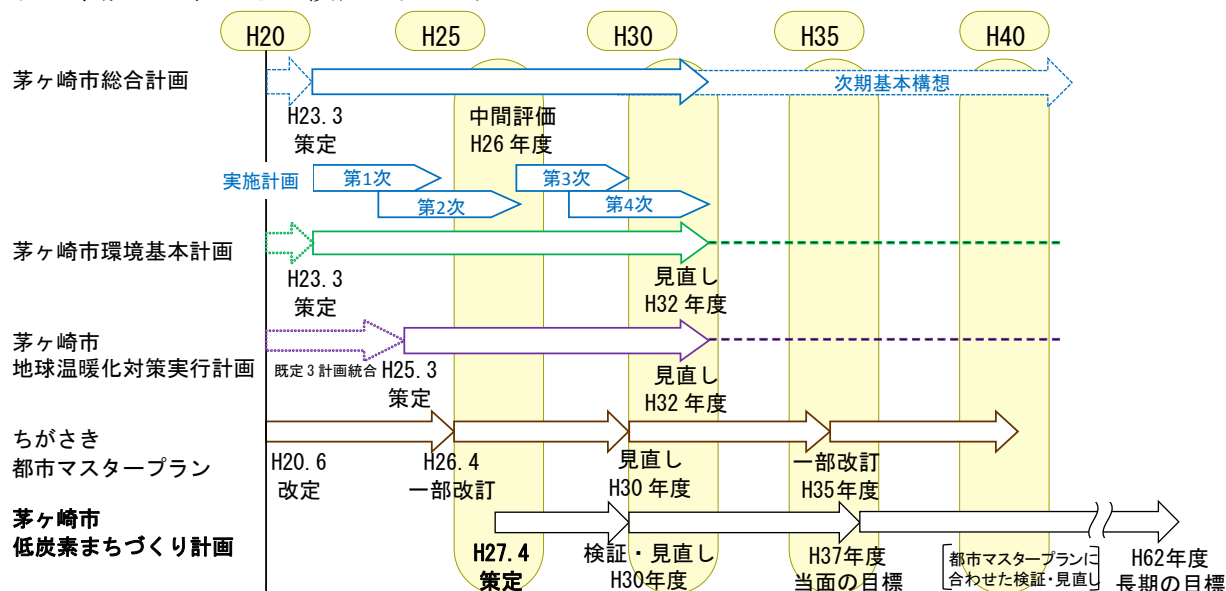


■対象区域・集約拠点地域■



■目標・計画期間■

- 「茅ヶ崎市地球温暖化対策実行計画」の“平成2年度(1990年度)比20%削減”を踏まえる
- 本計画の施策・事業による効果発現までには相当に長い時間を要することから、平成62年度(2050年度)を目標年とし、次のように削減可能性を示す
～運輸部門 約1.8%削減、民生部門 約20%削減
- 計画期間は、「ちがさき都市マスタープラン」、「茅ヶ崎市地球温暖化対策実行計画」と同じ、概ね5年おきに検証を実施する



2. 本市の現況・将来動向の把握

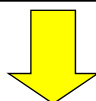
■都市構造とCO₂排出・吸収の関係■

都市構造

都市基盤

人工的 道路、駅、建築物、建築物・街区、上下水道、公園 など

自然的 海浜、河川、湖沼、農地、緑地、樹林、丘陵 など

暮らし 都市基盤の上で、社会・経済活動、市民の「暮らし」が営まれている
通勤・通学・買い物・業務などに伴う移動／居住・業務・生産・余暇などの活動

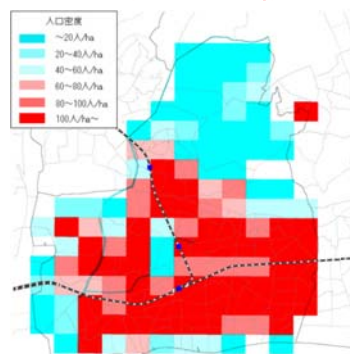
暮らしのエネルギー消費

…都市基盤の状況がCO₂の排出・吸収と関連

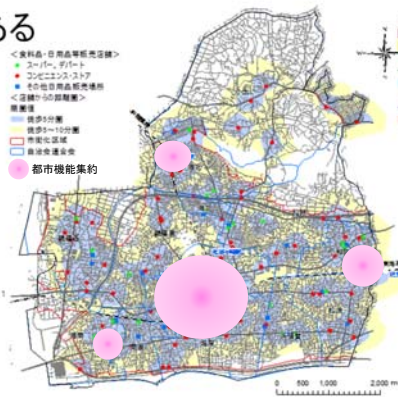
低炭素型都市構造

- 都市機能が拠点に集約されている都市基盤
- 自動車に依存せずに移動ができる都市基盤
- 高効率で自立分散的なエネルギー利用ができる都市基盤
- みどりが豊かな都市基盤

● 本市は**集約型都市構造**である



高い市街化区域内の人口密度



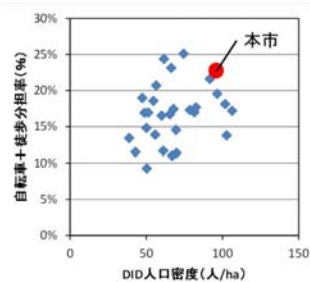
都市機能分布のバランス



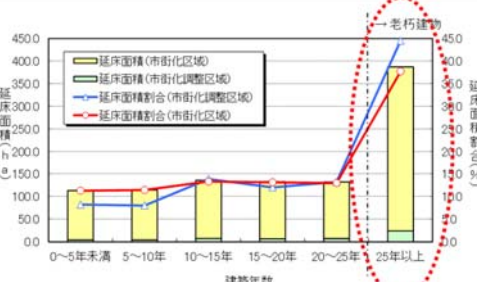
高密度な公共交通網

● **過度な自動車依存型**ではない

● **今後も建築物更新が進む**



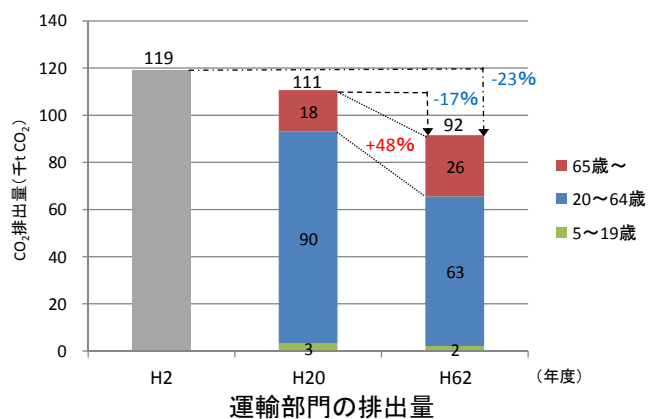
高い自転車・徒歩分担率(県内比較)



更新時期にあたる建築物も多数ある

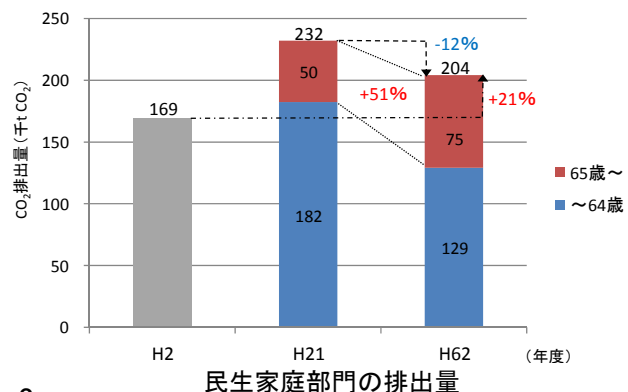
運輸部門のCO₂排出状況

- 本市を発着する通勤や私用などの乗用車利用を対象として約11万トン/年が本計画の対象
- 将来的には人口減少の影響で、CO₂排出量も減少する見通しとなる
- 65歳以上は人数が増え、この階層の自家用車利用が比較的多いことから、総排出量に占める割合が高くなる



民生部門のCO₂排出状況

- 民生部門のCO₂排出量は、将来人口の減少による影響で、減少傾向である
- 家庭部門:65歳以上の単身や高齢夫婦のみ世帯の増加が見込まれ、総排出量に占める割合が上昇
- 業務部門:減少と見込まれるが、環境配慮をしながらのサービス維持が必要



3. 低炭素まちづくりの基本的な考え方と将来像

P.17～24

本計画が踏まえる上位関連計画の理念

ちがさき都市マスタープラン：目指すべき基本的な方向

- 環境と経済・社会活動が調和した持続可能な都市づくり
- 「安全・安心、快適、便利」な市民生活が実現できる都市づくり
- 個性と独自性を市民とともにはぐくむ都市づくり

茅ヶ崎市環境基本計画：環境の保全及び創造の基本理念

- 健全で恵み豊かな環境を享受し、これを将来の世代に継承する。
- 自然と人との豊かなふれあいの実現を目指す。
- 環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会の構築を目指す。
- 地球環境保全を自らの問題として認識し、積極的に推進する。

茅ヶ崎市地球温暖化対策実行計画：施策の柱

- 温室効果ガスの排出を抑えた低炭素型まちづくりを推進しつつ、湘南の風土や環境を活かした住みよいまちを目指します。
- 森林等による温室効果ガスの吸収力を維持、増進するため市内のみどりの保全・再生・創出を図ります。
- ヒートアイランド対策として、市街地における壁面緑化や屋上緑化、緑のカーテン等を推進します。

P.17～24

本計画で掲げる将来像

● 歩きやすく、自転車が利用しやすい健康的なまちで暮らす！

🌈 都市機能が拠点地域に集約されている都市基盤

🌈 自動車に依存せずに移動ができる都市基盤

● 高機能で環境負荷が少ないまちで暮らす！

🌈 個々の建築物のエネルギー効率が低い都市基盤

🌈 自立・分散型のエネルギーシステムが利用される都市基盤

● みどり豊かで外出したくなるまちで暮らす！

🌈 みどりが豊かな都市基盤

● 歩きやすく、自転車が利用しやすい健康的なまちで暮らす！

- ✦ 行政・商業・業務等の集約した集約拠点地域
～まちなか居住の促進、商業・業務機能の維持・立地誘導 など
- ✦ 歩きやすい空間を有する集約拠点地域
～バリアフリー化、歩きたくなる公共サイン、歩行者の安全確保 など
- ✦ 利用しやすい公共交通機関
～公共交通機関の利便性向上、交通広場・施設の充実 など
- ✦ 歩行者・自転車が通行しやすい道路・駐輪施設
～歩行、自転車走行空間の計画的整備、自転車と公共交通の連携強化 など
- ✦ 円滑な自動車交通とエコカー利用環境
～エコカー利用環境整備、道路整備、移動に関する意識啓発 など

運輸部門のCO₂排出量削減可能性・・・1,613 t CO₂／年・削減率1.76% (P.37)

● 高機能で環境負荷が少ないまちで暮らす！

P.33～34

- ✦ 省・創・蓄エネルギー機能の高い建築物
～市民・事業者・市が連携した低炭素建築物の周知・促進 など
- ✦ 省・創・蓄エネルギー機能の高い街区・地区
～公共施設の高機能化、「(仮)低炭素化な暮らしのススメ」の作成 など

民生部門のCO₂排出量削減可能性・・・86,602 t CO₂／年・削減率21.1% (P.38)

● みどり豊かで外出したくなるまちで暮らす！

P.35～36

- ✦ 歴史を感じ、親しまれるみどり
～残存するみどりの保全 など
- ✦ まちを彩るみどり
～公共施設緑化の推進、民地での緑化促進 など

みどりによるCO₂吸収可能性・・・緑化方法や規模の見積が困難→数値を記載しない

自転車走行空間整備モデルプロジェクト

目的

本市は、地形的特性などから自転車利用が多い状況ですが、自転車利用者にとって、車道通行の難しさや、歩行者との接触の危険が懸念されています。



これまでの自転車道・自転車レーンの設置、通行区分の明示などの取組を、既存の道路の維持・保全と合わせ、つながり(ネットワーク)を意識しながらより一層推進していきます。

CO₂排出量の削減

目標値 72 t CO₂/年の削減

自転車が利用しやすい環境を整えていき、自動車から自転車利用へと交通手段の転換を促し、CO₂排出量の削減を図ります。

実施主体

茅ヶ崎市の交通、道路部門

関連主体

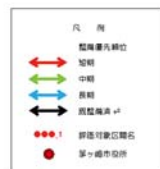
市民、交通や自転車利用者関連団体、交通管理者(警察署)

具体的な内容

自転車走行空間整備の必要性を整理した上で、道路の維持管理と合わせた効率的な整備の推進を図ることを基本とします。

このプロジェクトは、「第2次ちがさき自転車プラン」や「茅ヶ崎市幹線道路維持保全計画(自転車ネットワーク計画)」と連動し、整備方針、優先度と実施計画はこれらに基づきます。

また、これら自転車ネットワーク計画を踏まえたコミュニティサイクルのポート設置、来訪者が利用しやすいコミュニティサイクルの仕組みを検討します。



県道45号丸子中山茅ヶ崎線の自転車専用通行帯 (900m)



左富士通りの法定外路面標示 (600m)



国道1号の自転車専用通行帯等 (1,400m)

自転車ネットワーク整備計画

茅ヶ崎市幹線道路維持保全計画(自転車ネットワーク計画)

目的

自家用車が使用できない状況では、身近な公共交通機関が大きな役割を果たします。本市は、鉄道、民間バス事業を補完するコミュニティバスが、地域の身近な公共交通利用を担っています。



コミュニティバスは、将来自家用車に依存しないために、必要な社会基盤として位置付けることができます。そのサービス対象を広げ、利用しやすいの向上を検討していきます。また、サービスを持続的に維持するため、現在の路線バス形式から需要に応じたデマンド化など適切な形式選択に努めます。

CO₂排出量の削減

目標値 104 t CO₂/年の削減

コミュニティバスの利用環境の充実により、日常生活の移動の確保、地域活動の活性化を図ります。また、日常的な自動車の利用を抑制し、CO₂排出量の削減を図ります。

実施主体

茅ヶ崎市の交通部門

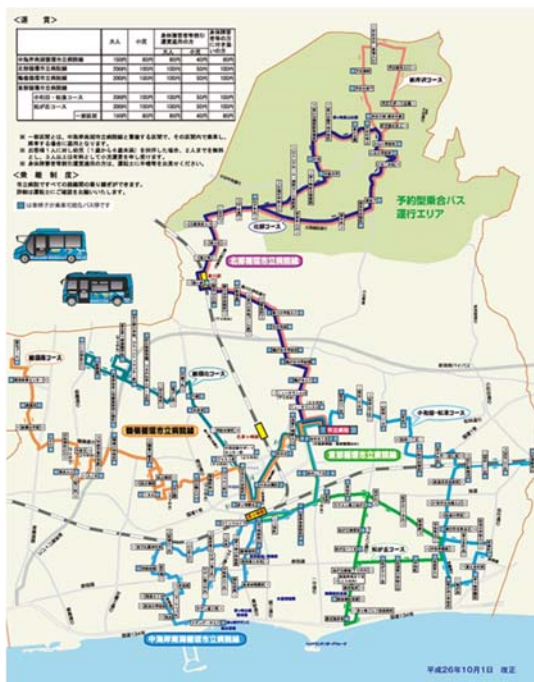
関連主体

市民、交通事業者

具体的な内容

市内各所にお住まいの方の移動手段として、公共交通空白地へのサービス拡大と適切な運営形式の検討を進めます。

バスに係る交通ITの導入、ICカード化の導入など、さらに交通事業者との連携を強化することで、より利用しやすいサービスの提供ができるよう、検討を進めます。



コミュニティバス えぼし号 路線図



交通空白地域の状況

目的

環境への負荷が少ない建築物や街区での暮らしは、快適な生活環境創出につながり、また、経済的にもメリットが大きいものです。近年、太陽光パネルが設置されている建築物も多く目にするようになってきました。



なるべく高い環境性能を有する住まいで暮らすようにし、そして、そのような高機能な住まいから出掛けるときに自家用車よりも、徒歩や自転車、公共交通を選択する暮らしへと、気持ち、こころの低炭素化を促進します。

CO₂排出量の削減

目標値 61,562 t CO₂/年の削減

個々の建築物の低炭素化、環境にやさしい移動手段の選択、緑の創出を促進することで、CO₂排出量の削減を図ります。さらに、一人一人のこころの低炭素化によって、街区レベル、地区レベル、全市レベルへの取組の拡大を方向付けます。

実施主体

茅ヶ崎市の都市、環境部門ほか

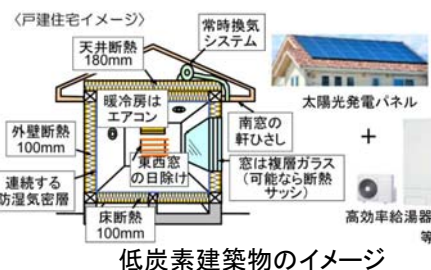
関連主体

全ての建築主、不動産・建築関連団体

具体的な内容

個々の建築物の低炭素化に係る情報、各交通手段の環境性能・経済性、緑の景観改善・冷却効果などの考え方をとりまとめて、低炭素型ライフスタイルを提案する“(仮)低炭素な暮らしのススメ”を作成します。これら情報提供の中で、個々の建築物にとどまらず、その環境性能の高い建築物での暮らしを、街区レベル、地区レベル、全市レベルへと拡大していく方向性を示します。

このような啓発活動により、環境改善への貢献等、日常生活に対する価値が変容し、心が豊かになる暮らしにつながります。また、意識変容が習慣化することで、行動につながっていき、個人から家庭、家庭から地域へと行動が広がっていくことが期待されます。



日常の買い物・通院の移動

➢ 徒歩・自転車・バス・小型EVで、自宅から診療所・スーパーへ移動



平日の通勤・通学の移動

➢ 徒歩・自転車・バスで最寄駅へ、最寄駅から鉄道で会社・学校へ移動



休日の買い物・食事・娯楽の移動

➢ 自転車・バスで拠点へ移動



➢ 拠点内は、徒歩・自転車での周遊



みんなの大切なみどりをまもるプロジェクト

P.45

目的

急激な人口増加、宅地化が進んだ本市は、公園等の空間が少ないと感じている方が多くなっています。現在、残っている茅ヶ崎らしさを感じるみどりは、地域の多くの方が親しみを感じているのではないのでしょうか。



公共施設である公園、緑地については、将来的な存続がある程度担保されていますが、民有地の親しまれているみどりについては土地利用転換の可能性があるので、市、地域、所有者の連携による存続のための維持管理手法や地域の中、都市の中でのあり方の検討を進めます。

実施目標

現存するみどりの保全を図り、CO₂吸収量を維持します。

実施主体

茅ヶ崎市のみどり、都市、環境部門ほか

関連主体

直接的には対象とするみどりの所有者、周辺にお住まいの方

具体的な内容

現行の「保存樹林制度」に基づく指定を戦略的に行い、市街地内に残存しているまとまりのあるみどりの地域での親しまれ方やCO₂吸収量等を評価します。
みどりの維持、保全に必要な関連主体の役割について検討し、将来的な存続につながる方策を検討します。

みんなでみどりを増やすプロジェクト

P.46

目的

本市の市街化区域には未利用地が少なく、さらに膨大な事業費を要するため、公共としての新たなみどり空間の創出は困難な状況です。まちで、いわゆる立派な庭や、鉢植えも含めて多くみどりがある建物などで茅ヶ崎らしいと感じませんか。



市街化区域内の道路や施設等の公共空間内において、緑陰空間や休憩ができるみどりの配置を進めます。さらに、最も多い民有地内にもさまざまな形でみどりが存在するよう、緑化を促進します。

実施目標

緑化を推進し、CO₂吸収量を上乘せします。

実施主体

茅ヶ崎市のみどり、都市計画、環境部門、施設管理部門ほか

関連主体

市民

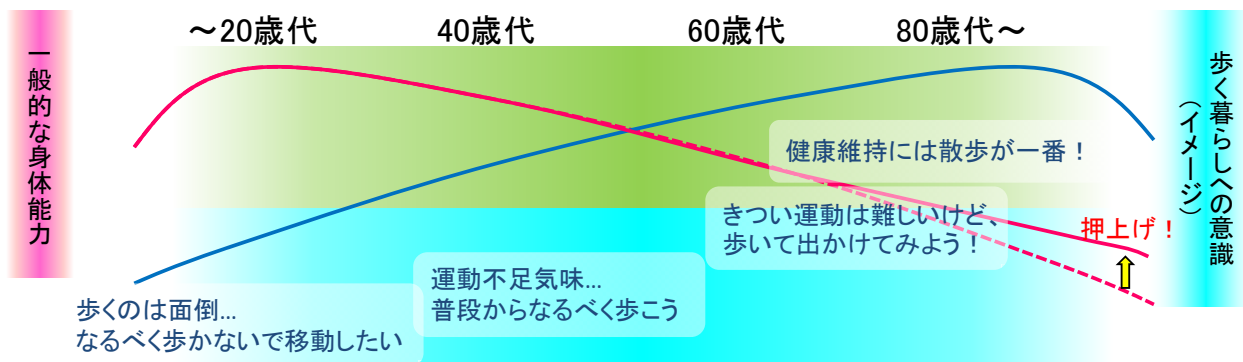
具体的な内容

特定エリアや区間をモデルとして民有地緑化や公共施設内緑化を進め、歩きたくなるみどりの創出、みどりの連続性・連単性を考慮した戦略的な促進・創出を図ります。まちづくりを検討する際に緑化率を向上させる仕組み作りの検討や、モデルケースの全市的な拡大を図ります。

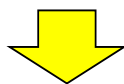


20年後、もっと歩きやすく、歩きたくなるためのまち改善プロジェクト

背景・目的



今から20年の歳を重ねたら、暮らし中で歩くことについて、どのような意識を持てるでしょうか？歩くことが今よりも重要になっている気がしませんか？



都市の機能が集積している茅ヶ崎駅周辺をモデルに、歩きやすく、歩きたくなるまちに向けたさまざまな視点をパッケージ化して、今から改善に取り組んでいきます。

CO₂排出量の削減

本計画が掲げる将来像「**歩きやすく、自転車を利用しやすい健康的なまちで暮らす！**」、「**高機能で環境負荷が少ないまちで暮らす！**」、「**みどり豊かで外出したくなるまちで暮らす！**」の実現に向けた取組を進め、人々の移動由来、建築物の環境性能由来のCO₂排出量の削減、みどりによる吸収量の確保を図ります。

実施主体

市の都市、環境部門から施設管理者まで、将来の都市づくりに係るすべての部門が連携して取り組みます。

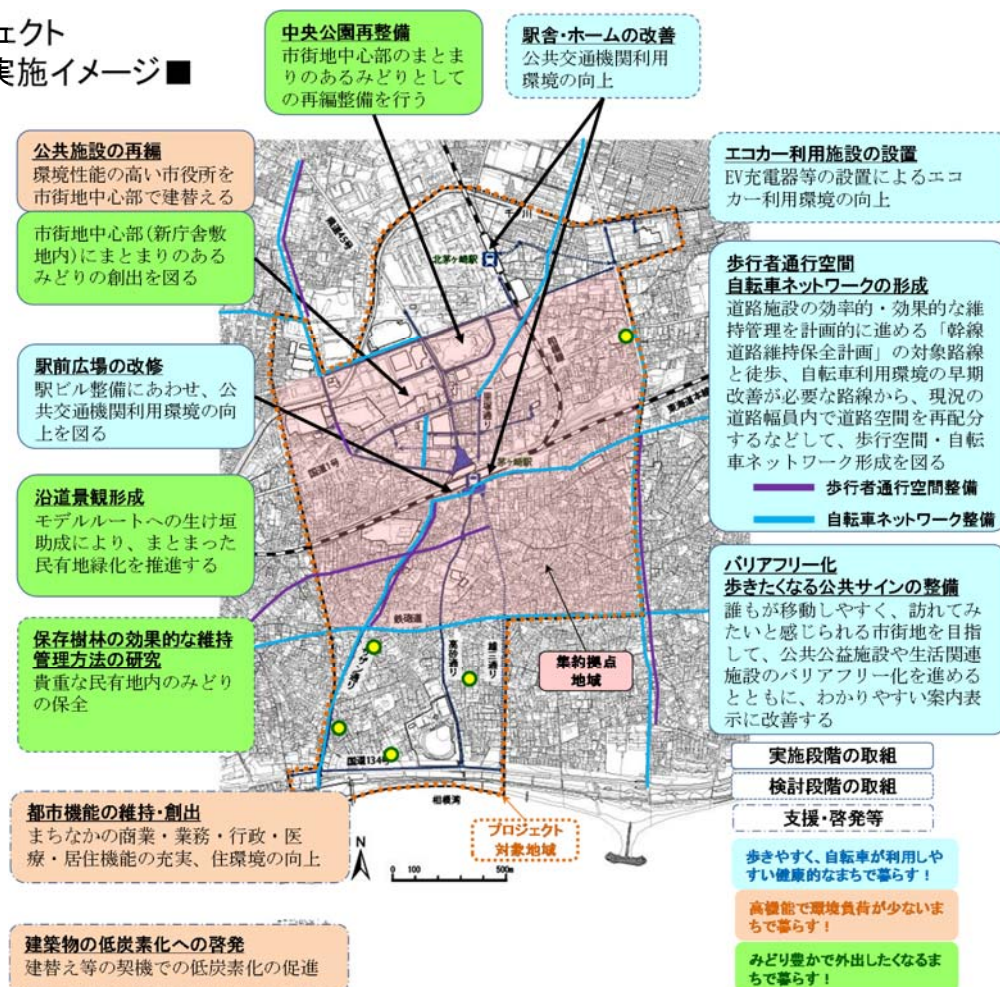
関連主体

市民、国、県、交通事業者、交通管理者(警察署)など

具体的な内容

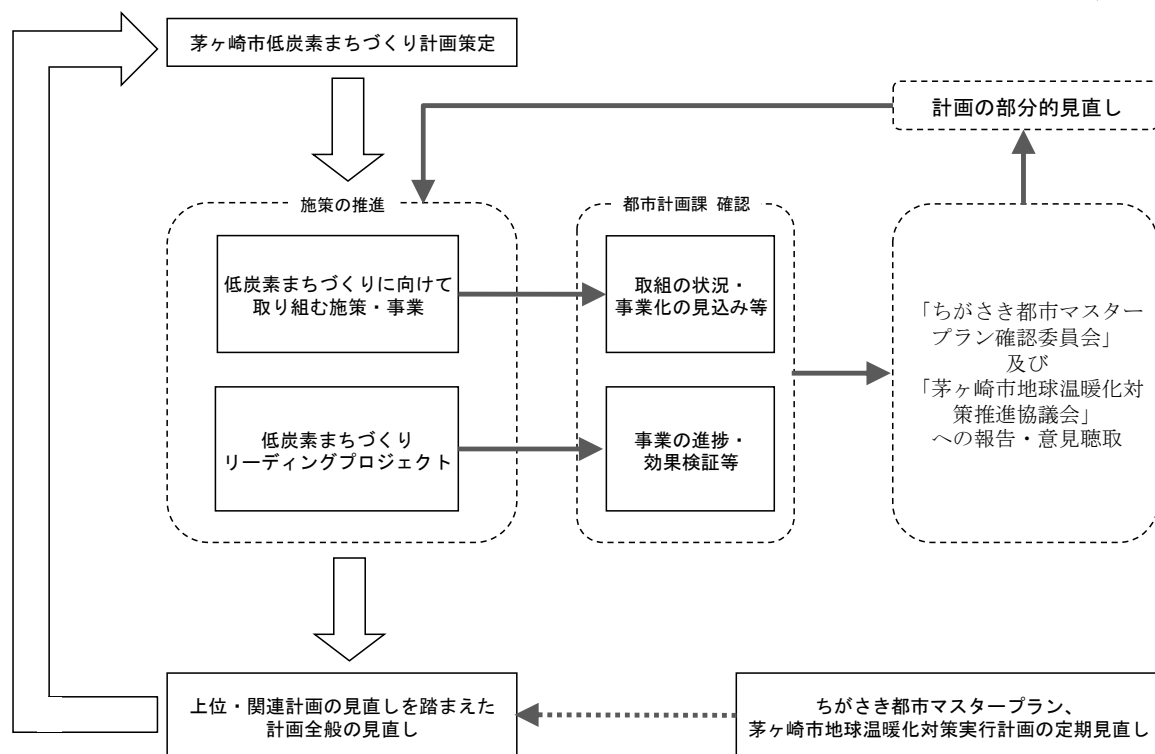
茅ヶ崎駅周辺をモデル地区として、将来像の実現に関連する図のような個別の計画、施策、事業を推進します。実施にあたっては、個々の事業優先度の考え方を共有して、各事業が相互に効率的に行えるように調整を図ります。事業化にあたっては、国土交通省の都市再生整備計画事業の適用を見据え、関連課が連携して積極的な展開を行います。

■本プロジェクトの実施イメージ■



6. 低炭素まちづくりの実現に向けて

P.49



年度単位の計画推進の流れ



目標年次ごとの計画推進の流れ